乙第百六号

當使管内鹿獵規則別紙ノ通相定候條此段上申候

候也

明治九年十一月十七日

開拓長官黒田清隆

太政大臣三條實美殿

甲第十一号

当使管内庶務規則別冊ノ通相定

来年ヨリ施行候條此旨布達候事

明治九年十二月十日　開拓長官黒田清隆

北海道鹿猟規則

鹿ハ北海道物產ノ一ニシテ其利タル尠シトセス然ルニ從來猟法制限ナキニ因テ妄猟濫殺繁殖ノ法ヲ缺クノミナラス自然其種ヲ減シ其聲價ヲ廢シ人民モ亦遂ニ其利ヲ失フニ至ラントス故ニ之ヲ保護シ永ク其利ヲ失ハザラシメンガ為メ茲ニ規則ヲ設クル左ノ如シ

第壹條

免許鑑札ナクシテ鹿猟ヲナスハ自今之ヲ禁ス

第弐條

鹿猟者願ノ者ハ左ノ書式ニ照準シ地方廳（本支廳ヲ云フ以下之ニ傚フ）ヘ願書差出シ免許鑑札ヲ受クヘシ

但免許鑑札ハ採猟ノ者ニ限リ之ヲ與フヘシ

第三條

鑑札ヲ受ルニハ一枚ニ付金弐圓五拾銭ツヽノ猟業税ヲ納ムヘシ

但旧猟師人ニ限リ当分納税ニ及ハス

第四條

猟者ノ員ハ年ニ六百名ト定メ満員ノ後願出ル者ヘハ鑑札ヲ與ヘス

第五條

免許鑑札ヲ受タル者ト雖モ毒矢ヲ以テ猟殺スルヲ禁ス

第六條

鑑札ハ一期限ノミ効アリトス且一己ノ用トナスヘキモノニシテ貸借売買讓受スルヲ禁ス

第七條

猟業ハ十一月一日ヨリ翌年二月二十八日（閏年ハ二十九日）迄ヲ一期限トシ右期限ノ外ハ猟ヲ禁ス

但免許鑑札ハ毎年三月尽限リ最寄受取タル地方庁ヘ返納スヘシ

第八條

十六歳未満ノ幼者及此規則ヲ犯シタル者并山林等ノ管守者ヘハ鑑札ヲ與フヘカラス

第九條

鑑札所持ノ者タリ共人家ヲ距ル五拾間以内及作物植付アル禁猟標札ノ場所等ニ於テ発砲スヘカラス

第十條

此規則ヲ犯ス者ハ三圓ヨリ少カラス弐拾圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科スヘシ

第十一條

犯則ノ者ヲ他ヨリ訴出テ實否取糺ノ上右違ニ於テハ其賞トシテ犯人罰科金ノ半ヲ與フベシ

但右出訴ニ屬スル諸入費ハ犯人ヨリ償ハシムベシ

願書式

鹿猟願書

一 何銃　但玉目何匁

右所持ノ銃ヲ以テ鹿猟營業仕度御定則ノ税金上納候間免許鑑札御渡被下度此段奉願候也

年 月 日

第何大區何小區何村何番地 寄留人ナレハ本貫何番地

願人 苗字 名 印

保証人 苗字 名 印

地方庁長官宛

前書ノ通相違無之候也

年　月　日

区戸長
苗字　名　印

乙第百七号

宮内省略ノ第二申

札幌在勤准陸軍大尉讃田正之義病気ニ付療

養ノ為メ東京エ陸路ノ処日数ニ手間取候

取ニ無之本月七日同地発程致候旨在勤准陸軍

少佐永山武四郎ヨリ申越候旨為心得相達候

条此旨申達候也

明治九年十一月廿一日

開拓長官黒田清隆

太政大臣三条実美殿